

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月12日

【四半期会計期間】 第53期第1四半期(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

【会社名】 ヒーハイト精工株式会社

【英訳名】 HEPHAIST SEIKO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 尾崎 浩太

【本店の所在の場所】 埼玉県川越市今福580番地1

【電話番号】 (049)273-7000 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 佐々木 宏行

【最寄りの連絡場所】 埼玉県川越市今福580番地1

【電話番号】 (049)273-7000 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 佐々木 宏行

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第1四半期 連結累計期間	第53期 第1四半期 連結累計期間	第52期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	384,414	382,059	1,543,486
経常利益又は経常損失() (千円)	8,459	25,736	432
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失() (千円)	5,666	12,016	4,994
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,652	10,617	673
純資産額 (千円)	2,987,889	3,000,800	2,990,215
総資産額 (千円)	4,162,952	4,162,577	4,126,438
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期(当期) 純損失金額() (円)	0.91	1.92	0.80
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	71.8	72.1	72.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第53期第1四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。第52期第1四半期連結累計期間及び第52期は、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、欧州の景気が依然低迷しているものの、米国経済は緩やかに景気回復しており、中国をはじめとした新興国では、景気の減速感もありましたが、緩やかに景気拡大を続けました。わが国経済におきましては、日銀の金融政策や政府の各種政策による経済成長への期待から企業の設備投資意欲の向上、雇用拡大へと繋がり、景気は緩やかながらも回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、顧客ニーズに応える応用製品の開発及び販売を進め、営業・技術・製造の三位一体体制で販売の強化及び生産性の向上に努めて参りました。

この結果、売上高は382,059千円と前年同四半期と比べ2,355千円（0.6%）の減少となり、ほぼ前年同四半期と同水準となりましたが、売上高構成に変化があり、かつ、安定生産による生産性の向上により原価低減が図れたため、利益面につきましては、経常利益は25,736千円（前年同四半期は経常損失8,459千円）、四半期純利益は12,016千円（前年同四半期は四半期純損失5,666千円）となりました。

主力製品であります直動機器につきましては、産業用機械業界等からの受注が落ち込み、当第1四半期連結累計期間の売上高は301,904千円と前年同四半期と比べ36,866千円（10.9%）の減少となりました。

精密部品加工につきましては、レース用エンジン部品の受注が増加し、売上高は58,584千円と前年同四半期と比べ25,689千円（78.1%）の増加となりました。

ユニット製品につきましては、電子部品業界及びスマートフォン等の液晶製造装置向けの受注が増加し、売上高は21,569千円と前年同四半期と比べ8,821千円（69.2%）の増加となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は4,162,577千円となり、前連結会計年度末と比べ36,139千円の増加となりました。主な要因は、たな卸資産52,303千円の増加及び現金及び預金19,828千円の減少によるものであります。

負債は1,161,777千円となり、前連結会計年度末と比べ25,554千円増加となりました。主な要因は、仕入債務30,938千円の増加及び借入金26,439千円の減少によるものであります。

純資産は3,000,800千円となり、前連結会計年度末と比べ10,585千円増加となりました。主な要因は、利益剰余金12,016千円の増加及び為替換算調整勘定1,182千円の減少によるものであります。その結果、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は72.1%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、6,596千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,720,000
計	18,720,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,245,000	6,245,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株 であります
計	6,245,000	6,245,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日		6,245,000		717,495		664,455

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,238,000	6,238	
単元未満株式	普通株式 6,000		
発行済株式総数	6,245,000		
総株主の議決権		6,238	

- (注) 1 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式750株が含まれております。
 2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ヒーハイスト精工 株式会社	埼玉県川越市今福580番地1	1,000		1,000	0.02
計		1,000		1,000	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、優成監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	760,119	740,290
受取手形及び売掛金	602,787	347,418
電子記録債権	12,920	266,659
製品	188,801	210,740
仕掛品	265,527	308,955
原材料及び貯蔵品	221,524	208,459
その他	35,416	42,622
流動資産合計	2,087,095	2,125,146
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	712,270	701,621
機械装置及び運搬具（純額）	106,330	101,274
工具、器具及び備品（純額）	20,763	22,725
土地	1,063,504	1,063,504
リース資産（純額）	66,937	68,163
建設仮勘定	496	1,005
有形固定資産合計	1,970,302	1,958,295
無形固定資産	4,070	3,753
投資その他の資産	64,970	75,382
固定資産合計	2,039,342	2,037,431
資産合計	4,126,438	4,162,577
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	201,390	219,684
電子記録債務	40,768	53,413
1年内返済予定の長期借入金	124,956	134,556
リース債務	11,541	12,427
未払金	22,946	36,100
未払法人税等	7,000	15,617
賞与引当金	9,998	3,666
その他	31,844	31,359
流動負債合計	450,445	506,824
固定負債		
長期借入金	506,367	470,328
リース債務	56,224	56,682
役員退職慰労引当金	65,261	67,573
退職給付に係る負債	57,924	60,368
固定負債合計	685,777	654,952
負債合計	1,136,222	1,161,777

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	717,495	717,495
資本剰余金	664,455	664,455
利益剰余金	1,599,153	1,611,170
自己株式	183	216
株主資本合計	2,980,920	2,992,904
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	367	150
為替換算調整勘定	8,927	7,745
その他の包括利益累計額合計	9,294	7,895
純資産合計	2,990,215	3,000,800
負債純資産合計	4,126,438	4,162,577

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	384,414	382,059
売上原価	292,668	248,240
売上総利益	91,745	133,818
販売費及び一般管理費	99,424	108,224
営業利益又は営業損失()	7,678	25,593
営業外収益		
受取利息	57	29
為替差益	970	1,793
その他	98	66
営業外収益合計	1,126	1,889
営業外費用		
支払利息	1,907	1,746
営業外費用合計	1,907	1,746
経常利益又は経常損失()	8,459	25,736
特別利益		
固定資産売却益	69	-
特別利益合計	69	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	8,389	25,736
法人税等	2,723	13,720
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	5,666	12,016
四半期純利益又は四半期純損失()	5,666	12,016

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	5,666	12,016
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	636	216
為替換算調整勘定	3,377	1,182
その他の包括利益合計	4,014	1,398
四半期包括利益	1,652	10,617
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,652	10,617

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
減価償却費	23,325千円	22,806千円

(株主資本等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、精密機器製造事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	91銭	1.92銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	5,666	12,016
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は 普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	5,666	12,016
普通株式の期中平均株式数(株)	6,243,250	6,243,248

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第1四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。前第1四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月12日

ヒーハイト精工株式会社
取締役会 御中

優成監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 前 田 裕 次 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宮 崎 哲 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているヒーハイト精工株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ヒーハイト精工株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。